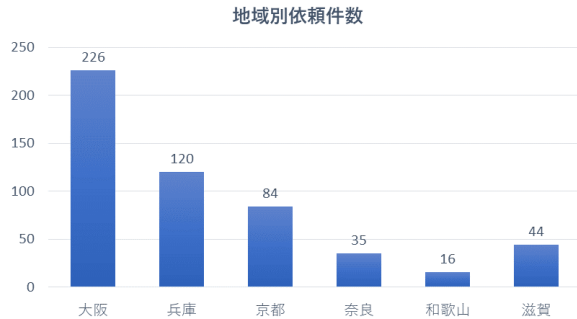


近畿ブロックにおけるプリオン病サーベイランス状況

研究分担者：大阪大学大学院医学系研究科 望月秀樹

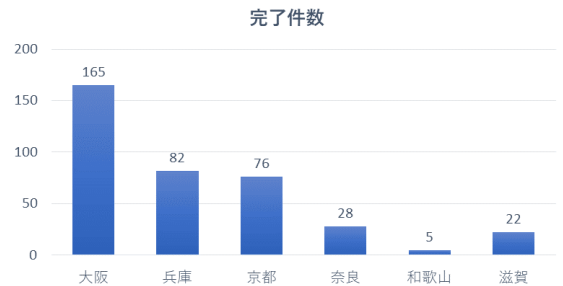
2015年度以降の近畿ブロックにおけるプリオン病サーベイランス状況(依頼状況)

各府県調査依頼状況(計525件)



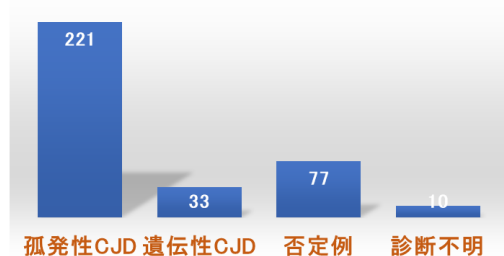
2015年度以降の近畿ブロックにおけるプリオン病サーベイランス状況(調査済み)

各府県調査調査済み状況(378件)



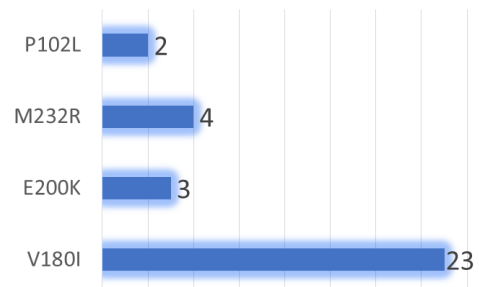
2015年度以降の近畿ブロックにおけるプリオン病サーベイランス状況(調査済み)

調査済みサーベイランスの診断(342件)



2015年度以降の近畿ブロックにおけるプリオン病サーベイランス状況(調査済み)

遺伝性CJDの診断内訳



1例はV180IとM232Rのdouble mutationであった。

解説

1. 2015年以降、近畿ブロックでは計525例分の調査依頼があった。
2. 528例中378例(72.0%)から調査結果の回答を得た。
3. 378例中342例(90.5%)は診断済みで孤発性CJD 221例、遺伝性CJD33例、否定例77例、診断不明10例であった。
4. 遺伝性プリオン病ではV180Iが23例と最多であった。